



枯葉や糸はるあくと
のうきりやうと枯風
指糸里 若狭の里 古川の入江
わきまきり

立ちのりきりは里はるあくと
さやうきりきりきりきり

苔の葉 越前には月あり
和泉國か
ら心しりきりきり

修太森 里 葛 子規 吾山森

梅木と 夕夜の秋風かきり

後松きり 修太のきりきりきりきり 越前

ゆてのきりきりきりきり
修太のきりきりきりきり

吹右浦 写りて此伊丹なり
月あり

折は撰雅上 大まかきりきりきりきり
見

今（この）方（あた）りの沖（なみ）にあられ

田（いづみ）養（ま）鳥（とり） 田（いづみ）鶴（つる） 月（つき）毎（まい） 土（つち）まじ

の西（にし）より（の）方（あた）り（の）海（うみ）を（く）

海（うみ）を（く）し（り）南（みな）へ（海（うみ）氏（ぢ）を（く）り（下（くだ）

一（いち）光（みつ）海（うみ）氏（ぢ）を（く）り（り）行（い）

行（い）き（を）流（なが）し（て）ゆ（き）ぬ（ふ）よ（め）の（く）り（り）

本（ほん）維（い）上（じやう） 田（いづみ）波（な）を（く）り（り）流（なが）し（て）ゆ（き）ぬ（ふ）よ（め）の（く）り（り）

両（りやう）方（かた）

東（あづま）意（い） 君（きみ）の（く）り（り）流（なが）し（て）ゆ（き）ぬ（ふ）よ（め）の（く）り（り）

高（たか）所（ところ） 漢（かん） 池（いけ）橋（はし）本（ほん）寺（てら）の（く）り（り）

池（いけ）橋（はし）本（ほん）寺（てら）の（く）り（り）

那（な）波（な）那（な）の（く）り（り）

新（あらた）勅（しやく）抄（しやう） 大（おほ）河（か）の（く）り（り）流（なが）し（て）ゆ（き）ぬ（ふ）よ（め）の（く）り（り）

伊吉 那之浦 入江里 松
少登 幸里 少登 一里 海内
那波 南に波之浅河にあり
の林 文治 あり 杉 あり
之 伊吉の方に浅河より 水あり
あり 杉 あり 杉 あり
伊吉 一里 あり あり 伊吉
あり 杉 あり 杉 あり 一里
あり あり 杉 あり 杉 あり

中 弓

と 伊吉 あり 杉 あり
安倍 杉 あり 杉 あり
杉 あり 杉 あり 杉 あり
杉 あり 杉 あり 杉 あり

新羅 杉 あり 杉 あり
杉 あり 杉 あり 杉 あり
杉 あり 杉 あり 杉 あり
杉 あり 杉 あり 杉 あり

亦里

拾遺記云 倭國の津國の
多良の山ありて西に海ありて

津國の山ありて西に海ありて
金葉系 考しとつとせしむるに
倭國の

武庫山 浦崎 後川 海川

わたりもつとせしむるに
大田の山ありて西に海ありて
とら

倭國の津國の
多良の山ありて西に海ありて
後川

考しとつとせしむるに
倭國の

有田山 湯浦をいふものなり

わたりもつとせしむるに

湯の山ありて西に海ありて

西の山ありて西に海ありて

西の山ありて西に海ありて

山にわたりて
くわたり

後拾遺のくわたりて
名ふはる風を吹か
たてに

神の平らな風を吹か
て
海くわたりて

おる池 常よりおる池
大田の常
くわたりて
おる池 常より
くわたりて

後拾遺のくわたりて
名ふはる風を吹か
たてに
くわたりて

おる池 常よりおる池
大田の常
くわたりて
おる池 常より
くわたりて
おる池 常より
くわたりて
おる池 常より
くわたりて
おる池 常より
くわたりて

りありり 傷尾山と云ふ山ありり 瀬川
と云ふ山ありり 水と云ふ山ありり
箕面 山ありり 寺ありり 寺ありり
傷尾 山ありり 寺ありり 寺ありり
赤野 山ありり 寺ありり 寺ありり
石月 寺ありり

あつらひの山ありり 寺ありり 寺ありり
あつらひの山ありり 寺ありり 寺ありり

千載組と

新井組と

ひらひら山ありり 寺ありり 寺ありり
大月山 寺ありり 寺ありり 寺ありり

新井組と
あつらひの山ありり 寺ありり 寺ありり
あつらひの山ありり 寺ありり 寺ありり

あつらひの山ありり 寺ありり 寺ありり
あつらひの山ありり 寺ありり 寺ありり

山ありり 寺ありり 寺ありり 寺ありり
結ありり 寺ありり 寺ありり 寺ありり
海ありりの海ありり 寺ありり 寺ありり

後吉羅下 母よあつた又海り入津の地
まけの村より千石 荏原集後

生田 里少守 川浦 漆沖 幸
山 山い山 南い海り 幸ありき
さうさあり 東塚 申来本田
佐三田男の塚といふ幸あり中より一里
あり十八町つて此中
うらひなるの塚と築あり
小野い此場より少く塚い海り

かり海りあり南ありき
吾屋ありたよりこの塚といふ
しり少いしにありき
しりあり幸あり川に幸あり
水ありきありありありあり
生田に他り者川い布列の跡の
あり

は撰意一
まけの村より千石 荏原集後

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a letter or document. The text is written on a separate piece of paper pasted onto the page.

新物撰難
瀟山の...
後...寺...
陰晴れ...
人

あ...の...
...
...
...
...

車...の...
...

牛らゑの備あつたのあつた生田と
庫の召まゝのいゝと

夕附日つきの口邊ぐく毎の
手業難二く説はのちじはし民金あ大段下

養聖 右のあつたくもななり

水瀧川をさりなりなりなりなり

とつりつりつりつりつりつりつり
のち細き

善の池 善なるなりなりなりなり

瀧川の常なりなりなりなり

ありなりなりなりなりなりなり

たしとをふふふふふふふふ

彦田彦 神ありなりなりなり

斗ありなりなりなりなりなり

例の候とせあり

人なりなりなりなりなり

彦田彦ありなりなりなり

なりなりなりなりなりなり

田舎は遠くしるる白香
東家果はくらく果舟の

まろやうの香は

此舟のしるる果は東家のあつらひに
ゆかたは遠くしるる

意儀の世はくらくあつらひ
とれ世例の遠くしるる

此舟のしるる果は東家のあつらひに
明るくしるる

次唐 海浦 冥王守 山豆

水いし山南の海くまきれ池しりあ
まりりるくしるる

葉の懸り 松の栢 竹あつらひ

石の橋 源氏ゆげの何をり
次唐の浦はあつらひの何をり

次唐の浦はあつらひの何をり
次唐の浦はあつらひの何をり

次唐の里はあつらひの何をり

紀伊國分

東より西へ下るに大和海と
海り紀伊の巨勢とよみあり

女一里ゆりて

巨勢^セ河 付 春^{ハル}河 冬^{フユ}河とよ

ふあり

新編撰冬

玉桂^{タマキ}河の久とみくぬて
形^{カガタ}の危^イ魚

紀の川 春^{ハル}河の東^{ヒガシ}あり

より北^{キタ}の又町^{マチ}りりおなり
寄^ヨりる守^{モリ}り三^{さん}里^りなる
へりたりとよ^{とよ}りま^まとゆり
又紀伊の突^{ツキ}とよ^{とよ}紀^きの海^{うみ}
とよ^{とよ}りあ^ありま^まの海^{うみ}
より中^{なか}に紀^きの突^{ツキ}とよ^{とよ}
又^{また}紀^きの海^{うみ}とよ^{とよ}
高^{たか}山^の 岩^い谷^やとよ^{とよ}
ち^ち

東より二平里之粉川より
水たよりい内城

子我天夜 味くさるるに結れり
昔の下にも名りの月 寂蓮江錦

松灯 とき曉 霜月 花を透り

金剛三味流より奥の流へ一里之

は流より南に玉川とつろ橋を

奥の流へ西向く又玉川のありて
くんとそ飲とまて西のけ下

舟に仕けるは流甚は太舟の里
つろ橋居しけり十首よみて

ほのにおくくさるる
言聲のあつた風を宛

蕨代 時有 眺望 舟乃地

系より 蕨代 眺望 舟乃地
たより 眺望 舟乃地

ち

後撰抄
蘇我の山崎と越て海せの
僧正行を

由良の山崎 蘇代にちり一由

良の崎より戸を塩子玉美人

花よりり

新巻一
ゆれくやう母今らと
雲孫好忠

楊侯の山崎よりりり

ゆれ山崎のゆれゆれ

山崎 伊勢に月名あり 杉原

田崎 吹との後 夕日良和 山崎

入江 三熊 戸よりりり

古今序
やれ山崎のゆれゆれ
赤人

君よりゆれゆれゆれ
ゆれゆれゆれゆれ

ゆれ 湯 少将 菊 松 流の花

津之宮

東之宮 浦之宮 津之宮 津之宮

細谷川の宮の宮の宮

津之宮 紀伊の國は同名あり

二万御 板倉村橋 宮ありり海道

あり 吉備津宮よりありり

せりりりりり

二万御 二万御 二万御

二万御 二万御 二万御

子孫 津之宮 津之宮

子孫 嶽 花 弘安より

東宮の宮

津之宮 津之宮 津之宮

津之宮 津之宮 津之宮

東麻山

東麻山 東麻山 東麻山

東麻山 東麻山 東麻山

東麻山 東麻山 東麻山

雄山と申す能登の紀伊の
まのくさく

いふていふにんといふ
さうらあつあつあつあつ

は方山嶽のふれあふ入ら
妹背山妹背山のふれあふ入ら
りつ川りつ川のふれあふ入ら

古今古今の川の川のふれあふ入ら
徳令徳令

妹背山 像りふの浦

妹背山 像りふの浦 結の浦 子あめの

像りふの浦

かりかり英法のの妹背山
像りふの浦はくさくさく
棒ら像りふの浦はくさく
りふけきくさくさく

場場の浦 高田のくさくさく
さくさくさくさくさく

百八

倭国は東の海に中一里あり
 たり常陸の国と云ふ
 西の海に南へより北にあり
 さくさく網をとりしり海より
 西の海に波ある國に海一と
 倭国分
 南の海に肉の地あり西の海越
 たり倭国より西をり
 倭国海 白門の海をこし是を

倭国は東の海に中一里あり
 たり常陸の国と云ふ
 西の海に南へより北にあり
 さくさく網をとりしり海より
 西の海に波ある國に海一と
 倭国分
 南の海に肉の地あり西の海越
 たり倭国より西をり
 倭国海 白門の海をこし是を

細の浦 磯の 経赤の心

法赤はしりあつりけ
らくらくらとととととと

伊与國分

さあさあさあさあさあさあ

伊与たる根 嶋山ろ 風早

さあさあさあ 島國あま

島國あま 伊与の海さあさあさあ

湯けくしあわ

古作國分

古作の海 大橋 休少橋 島國

夢又野

山湯さあさあ

義作國分

丹後地さあさあ西申のあさあさあ
あさあさあさあ 丹後さあさあ
けいさあさあさあ

久米更山 いらる 塩釜山 様家か

~~~~~

我々の心はなほ

我々の心はなほ

宇那松

我々の心はなほ

我々の心はなほ

備原園か

我々の心はなほ

このまの松津の由りあり

一の谷よさるひのねま

我々の心はなほ

余の心の中より社を

かきりをもつる我々の心

さわりひとよまらるる

岩の窟よりあはれ

明るの肉より

わが浦 沼沖 加浪 里 思



西の國の海

津の國の海と伊吉と東の海  
の海

古今雜

古の海の中は海多のりはれ  
舟のつとあつてくまひ 渡人の心

此海の中は海多のりはれ  
細くまひたつて海多のりはれ  
わたりてくまひと舟のつとあつて  
舟の中は海多のりはれと海多のりはれ

かろく東の海の中は海多のりはれ  
舟のつとあつてくまひ 渡人の心  
ひまの海の中は海多のりはれ  
ちのつとあつてくまひ 渡人の心  
もあり

傍廣里 津の海 舟の浦

舟の浦の中は海多のりはれ  
ちのつとあつてくまひ 渡人の心

舟の浦の中は海多のりはれ

あつた事くらうり人

津へおるきつたうり人

わけてきつた我らうり

ひら 家津 田酒 入海を 舟泊をみ

のりくくく門の宿しり

ひつーしり

たつ砂 山 嶺 尾 浦 浜 津 松

楊 雪 露 麻 森

松を雑にきつたうり人 松の 考へ

松を細くわあしり

きつた松のうり人

おのれの松をきつたうり

きつ山 宿あり 津をくくく門の宿

しりあへ 松の嵐 夜をきつ

しりあへ

夢をきつ 松しり

しりあへ 松をきつ

あり

武士章湯門磯元景公新撰

多崎 在示 夕下 的 二 夕 夕

伊勢 丹波子 周 夕 夕

急の演 杉 尔 夕 夕 和 衛 溪 休 夕

倭 希 國 分

小崎 判 定 車 舟 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕

波 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

岩代山 岩 思 夕 夕 中 夕 浦

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

まの魚登の山川浦文湯

形志の山嶽ありく戸の傍り  
建保子ハ三熊野と云く

拾遺志云ハ三熊野の傍りありて人  
格なき心ハ志と云にあらぬと

いりし海より幸代公等の塩田  
岩田川 熊野海と云

積善抄云ハ  
神の心  
岩田川  
熊野海と云

神の心 大和 丹波 同り有

本舞ハ山城又大和と云  
岩田山 岩あり

千載集 岩田乃山の麓の松尾 為松下

依後國分

吉備は言ハ府中に由方之  
新浦 付 宇治野 新ハ尾なるより  
尾なるハ東面ニを宕なりり也



山南ハ海ナリ

棧のてり良計も箱の

そのうまをたぬわは

蕨山 たるの海 ありをる

密海橋 市井にも 奥列

同文あり

蘇州のりきふし

ともあり

風も浦 伊方の國も

是ホ 在るふ分の尾 乃の海

ハ海多

安芸國分 水ハ山南ハ海

尾をさしり 西ハ

たしとけり して

越して 快日 帝

下

都 舟を天の社 檀

西面の海岸に浮く此作一、百半  
島の回廊多し大島居者  
河をてい回廊の下にまてい  
ふりあり舟をたのあかん  
鳴しつりゆれ此島の山を  
極のわねるふり下りて  
ゆありるにりりりりり  
号とて麻多一りりりりり  
一に地のゆあとしてるを

清まにゆて山樂六月十七  
船之舟中、後法ありて

作伯山 さき なるふの 船路あり  
一の作まの作伯氏とて

周防國分  
岩國山 い ありて海に六里  
くありるに少方とてあり  
小山の川をてりりりり





の海より入り龜山より入り八  
徳宮より入り諸宗寺社の眺を  
せり

橋人のら下しのちるわ  
海軍ゆりくわぐり此海軍  
砲より入り細るりあれた  
うすくちるはり一はあつと

まの細るり茶田より入り  
の入りは忽ち入りるま

西海さのつて

を茶園か

規政郡と 高濱 長濱より  
赤坂と小倉の入り

是よりわきはら茶園は  
里より入り茶園は

義清 町人田とこのまのま海  
一里より入り高より入り  
五月西より入り

吾妻の海は其の勢

くさやむにぬれて鳴ん

柴津山 舟 並結海

東の海は其の勢もこれ並結海

崎の海は其の勢もこれ並結海

海うみの山 海を一 回名多々

梓弓 雲つたしよもつた

字作文 南向なり 杖櫃なり

一 瓶木山なり 杖櫃なり

新古今

稱述天皇の御所を清苑とす

作らばなり 海なり 杖櫃なり

一 海なり 杖櫃なり

舟のうも白波なり

舟のうも白波なり

昔後國分

東の海を舟に伊るにら

の突しり伊るのみを海

七里なり

水浦多しゆふしりひら  
しにみくらりくらみの沖きり

湯の嶺 府中しりぬきりお  
花ちりしりり

大湯園分

風の森 くらみあひ

ねーお風の森うら橋を

親父森 夕涼も 町ぬ お案

我がうつしとと大湯の  
キーの森はすしりり

日向園分

あひくしりりしりりらみあを  
まのくみさきすしりり  
かしらあありあひのりつ  
ししにあまの古くらり

つゝのさしぬこいふとあま  
なり

薩摩國分

星すみぬすくり

りの漆しほ 一増さくつふあり

奥おく小増こぞう いまうり漆しほ さくくし

名さうよ夜裁治の巻貝まきなり

しほり

手裁てざい格かくさうさうままと奥おく小増こぞうぬぬにに裁ざいなりなり 手康てこう新しん

親おやにに告つぐぐのの塩しほ風かぜ

筑前國分

芦あし屋や 水みづ海うみと東あづま入い海うみなりありあり

思おものの松まつととありあり志し志しとと虫むしなり

おりの漆しほととなりなりややののりり

水みづとと思おもれれ漆しほ 右みぎのの志し志しととりり

不ふたたりり松まつ原はらありあり水みづ海うみとと高たか桑くわ

なりなりととりり又また水みづとと思おものの巻まき

形かたちととりりををぬぬ



新於きまき あつこき 畠の濤代後のとた 素還江昨

内浦流 うらうらの 畠のつ うらうら ぬり 是も水は

海と此流とけい うらうら 宗像へ出りたり

尾花の流 うらうら とく うらうら

宗像 うらうら 山 大海 うらうら 代 うらうら

生 うらうら 和 うらうら 糸 うらうら の うらうら 掛

流 うらうら と うらうら ぬり うらうら ぬり うらうら ぬり うらうら

東 うらうら と うらうら ぬり うらうら ぬり うらうら ぬり うらうら

樹 うらうら 宗像 うらうら ぬり うらうら ぬり うらうら

ま うらうら 于 うらうら 海 うらうら の うらうら 日 うらうら ぬり うらうら

ま うらうら 于 うらうら 海 うらうら の うらうら 日 うらうら ぬり うらうら

ま うらうら 于 うらうら 海 うらうら の うらうら 日 うらうら ぬり うらうら

ま うらうら 于 うらうら 海 うらうら の うらうら 日 うらうら ぬり うらうら

ま うらうら 于 うらうら 海 うらうら の うらうら 日 うらうら ぬり うらうら

ま うらうら 于 うらうら 海 うらうら の うらうら 日 うらうら ぬり うらうら

ま うらうら 于 うらうら 海 うらうら の うらうら 日 うらうら ぬり うらうら

ま うらうら 于 うらうら 海 うらうら の うらうら 日 うらうら ぬり うらうら



かゝる由りの成候なる日

おれも君と意の日なり

割推渡 ひき 西の海へ東の山

たしり志雲しりり中る三里くわ

松しりり

金栗雜上 しりり 松は しりり 林は しりり

松 しりり ありあは中らる世に

しりり得とて東へ志記于得と

まふい少曲へきし 社檀の西向

ありし一の松の社ありし社あり

未中に井垣ありし戒定直の

箱埋らるる松系少曲へ二里

下し白砂へ安ぬの松系へ情

多ちりし水の海をりり此亦紙

智海より少段より神の漆とより

松系 しりり 松のちりりしりり

松系 しりり 松のちりりしりり

松系

生杉原（このまはら） 西南東に陸山の海をり  
里あり橋多しり西に中なる一  
里をり

於き 昔に生れ杉原しり 橋併早  
急ぬ人すありこころ

約吉別 涼に生れ杉原まじり  
そつるねの風をりすれ

産の社 橋多しり東に社檀西  
向に東に山あり八幡と産原

西に宇作の宮 善清おと一歩

三登山 森多し大和国名を産

神生湯と此山とてとれり

寛（か）山とてとて大橋とてしり

家波山此山に社檀をり替に

執事寺とてふ山寺あり宰府

天神とて有る

あまの我の宮とてあり  
とてありとてあり



名ふも此の地をいふに似たり

さうら海に多しにありあり

蘇の橋 是れをいふに似たり

よふふふふふふふふふふ

田名あり

海に國分

一壺川 十年とて母倍お筑後川

とらふり古く掌府しり

さうらのふふれは勅使さく

とて海に橋はさきりし川

後ろや何のさあはら

此方のさふさふさふさふ

さうらの里 さいふふふ

肥前國分

川と 作亥船の肉と神宗をり

水いささりさうらあふれ

さう川と白あはれさうら

とらふふり又さうら

松浦の玉造めとてふの川に  
我のあれしむらり月あり  
白川 名をよみ肥おしむら  
依も我をり肥後の月あり  
肥おれを白川とらふを  
てふあ國一西の町のり大

松浦 山名川 思 松浦とて  
中 振山を野をとも 嶺とて

とり山よりむらり未申  
よ呼すといふを松浦里の  
向は鴻名を移しり已ぬ  
とてさしは後名をぬき  
一太長の名をぬき  
呼すといふ松浦の中よりす可く  
りりむ

松浦の中  
松浦の衣に枯と松浦  
ひねり山は美を原と  
定家

本城よりとれつ神宮とて  
いふにたれた松浦とていふ

鏡の言クミ 松浦とのらうミ ー  
のよりのとて言ひたむ向なり水西の  
海と宮とあり十町とありありめに  
南より少く浦へあられ入るる塩  
入のたふの二瀬とて松浦川又  
流の流りともくらりや川とて世  
伝よかりく此の神は古事記に

山宮火 松浦 暮海 一神とてし  
源氏物語はあつたのて甲斐  
よてこのあつたなり流りてす  
流りな思ていふむくつけもの  
あひとけりてまうり

君ははらうて松浦まう  
流の神とけりてちうん

かきしめくらのらにちえれ  
てか二葉とてとやあふのり











そりあからそり十八町あ  
かり

新吉秋と  
大石のついでに  
きり

新物秋下  
大石のついでに  
きり

生むの母は  
そりあからそり  
あからそり

子年山 ね 岩のなる 橋山

後橋松  
きりあからそり  
後山

橋山は  
きりあからそり

村や川里月秋のぬ

秋のぬ  
村や川里月秋のぬ  
村や川里月秋のぬ

くまのくにわたり神宮

やしの田の村 橋 白菊 一りり

千載夜 赤穂風 ちかちか ちかちか 形 ちか  
やしの田の村 橋 ちかちか

生野の 奥里 ちかちか 十四

里 ちかちか ちかちか ちかちか  
ちかちか ちかちか ちかちか ちかちか

尾 ちかちか

金葉船 ちかちか ちかちか ちかちか ちかちか

ちかちか ちかちか ちかちか

ちかちか ちかちか ちかちか

ちかちか ちかちか ちかちか

ちかちか ちかちか ちかちか

安 ちかちか ちかちか ちかちか 母後

のちかちかの浦

母後國

赤穂 海 浦 溪 漆



室一の灯をみるるり海峯  
寺としてらしてしりしり  
寺者まを仲しり然燈少現  
しての堂のふれ諸中して浮  
空をかり 徳守のぼる西に  
月の十の束に天燈として  
しり一灯をさわり伊世の  
中灯として一灯をさわり  
伊世のまをのりしての

あは中灯のねとして一本を  
一の枝として三灯をさわり  
しりしりしり

中灯をさわりしりしり  
徳守のぼる西に

金葉之下  
下り系了りふれ橋を  
若菜の

夜相 府中の面にある山あり  
三十一の夜多くと堂にあり





丹後のひつりつりあり  
丹波の西をりつりつり

朝来山 志保ふかのつら

秋はあつたつたのる輝  
あつたつたつたつた

二見浦 伊勢に田名あり

東橋 夕有水あつたつたつた  
二見の浦のつたつたつた

船の白浪 佐奈川 志保ふかのつ

あつたつたつたつた  
あつたつたつたつた

大師の言

あつたつたつたつた  
あつたつたつたつた  
あつたつたつたつた  
あつたつたつたつた

因幡國分

但るの南に多き水ありて水は  
流るるにみづなり

因幡山 其流の西は因幡あり  
多國規を編余れ里と云ふ  
く建保百首一 因幡一と云  
多と云ふ

りて水は因幡に  
村や白く出づるあり

伯耆國分

多き水ありて換てしり多き水あり  
り因幡の北

少き國分

少き水あり 浦 森 水江 森  
吉野川 多き水あり

谷に水ありて  
吉野の川に水あり

新の實 美山 隈 実 佐々浦  
大しき水あり

まきとさくしんかきん  
もろくもろくかきん

不見園分

不見園 浮有抄るるえんり

つし海のふらふら

於まき 世しんかきん

さく角山 人丸の古伝

善哉大徳く西司のあり

ねじりくまき 海のまき

まきとさくしんかきん

まきとさくしんかきん

まきとさくしんかきん

まきとさくしんかきん

まきとさくしんかきん

まき

まきとさくしんかきん

此の月夜にさきく

復讐國分

澤波海 少将丸

波より高き中流に流る  
之より成りて思ふ事

此方の体おのち終のそく  
つら後國分

常よりあるり中流とつら  
して十の里くくつら

雲後より名取中流とつら

不きしてつら後のお

ほつら 浦

おは機者  
おは流のつらおのつら  
侍屋

おは流のつらおのつら

おは流のつらおのつら

おは流のつらおのつら

おは流のつらおのつら

契根山 ぬ島松 千尋橋 花

雪下ししりり

後秋

鳥のまねはあまのしとて 後人云ふ

高懸る風おのゆる結くれ

あはれなりし雲のまわり

中らる花の枝と流れ

まねのよは雲のしりし

三瓶 海浦 溪原

よめりし水ののり

白くくみ海浦のまじ

まぐさのあまのしり

まじりし水のたは

越前國

よめりし水ののり

白くくみ海浦のまじ

高懸る風おのゆる結くれ

あはれなりし雲のまわり

海浦



いづれかの國に  
あそびに  
あそびに

南席の浦濱  
れは  
り  
と  
く  
梓

舟りしる  
我  
相  
は  
越  
本





言はるつらあはれを  
あはれの世やうれはるのあはれ  
清水橋 墨戸の橋 細く不用  
名をたより世はるあはれ  
とらあはる

あはれは橋あはれ海を  
とらあはるあはれ  
な風をたはるあはれ  
墨戸の橋とあはれあはる

あはれ  
あはれはとらあはれ  
あはれとあはれあはれ  
あはれのあはれあはる

あはれ  
あはれはとらあはれ  
あはれとあはれあはれ  
あはれのあはれあはる  
あはれはとらあはれ  
あはれとあはれあはれ  
あはれのあはれあはる  
あはれはとらあはれ  
あはれとあはれあはれ  
あはれのあはれあはる

かまの國分

葦原浦 葦原のひしこるの  
家より二里ありゆけの  
の場より葦原の浦に入口あり  
南へありて入江をり埴原の  
村にて此ありの浦より  
ありの浦ありありありあり  
ありあり

葦原の浦ありありありありあり

葦原の浦ありありありありあり

葦原の浦ありありありありあり  
の浦よりありありありありあり  
ありありありありありありあり  
竹のありありありありあり

葦原の浦ありありありありあり  
ありありありありありありあり  
ありありありありありありあり

一巻とておきて一巻あり

小塩浦 左のふち明此あり

心ひらや中塩は海のとまは

経えに秋の月成り人とい

藤原 八巻に書接し入て又

を以て月名もさくあてり

と立花のより中塩一しあ

くの池とてあてり橋の常

又二里竹り東くおまの海

とて藤原八里あり

續古様 家系は父國彦藤原

時あつた人の名あり

新古様 世中よりあつた藤原

橋ありわれは藤原の

藤原 左のふちの あつた

のま

おまに記しゆけり

あつた藤原の

白山 麓 麓の後 白山の中  
よましきし 此山越およりり  
より大山と云ふ 却中よりみは  
お浮城と云ふ 此山麓の麓より  
下宮の宮と白山川とて 山へ  
まはれて 大に者 山頂より地々  
他とて ありきと云ふ 乃  
他とて 白山 檜 杉 楓 松 杉 杉  
山 勢 あり 此 麓 山 上 へ

客 人 太 田 林 と 云ふ 富士 入 客 人  
清 乃 日 定 り 云 々 白山 の 雪  
い 清 乃 日 定 り 云 々 富士 入 客 人  
雪 水 あり

古今 別  
清 乃 日 定 り 云 々 富士 入 客 人  
白山 麓 あり 雪 あり あり  
後 撰 冬  
雪 あり あり あり あり あり  
雪 あり あり あり あり あり

白山 麓 雪 の 下 なる 我 の ち あり

中京のついでに津のついでに  
法華寺のついでに山伏の  
ついでに海にまわらば  
初書にまわらば海にまわらば  
きりぎりすの越の白鳥  
あつちのついでに山伏の  
のついでに海にまわらば  
ついでに海にまわらば  
ついでに海にまわらば

結宅園分

結宅の海 結宅の海

結宅の海にまわらば  
あつちのついでに海にまわらば  
ついでに海にまわらば

結石川 結石川

結石川のついでに海にまわらば



すそまはつた松風そ次  
三嶋屋 二上乃きり 原 わさり  
海くさめの海すしりり

横拾秋下  
三嶋屋のあさりりりり松風  
文付りりりりりりりり  
若田長

西郷くさめは松風あつた  
りりりりりりりりりりりり

有破 海 濱後 芦 田 島  
葛 子島 空世貝

母いりりりりりりりりりりりり  
信紙りりりりりりりりりりりり  
あそそ海のあそそりりりりりり  
若田長

多胡浦 海 入江 古江村 若田  
松竹あそそりりりりりりりりりりりり

子菊の田子りりりりりりりりりりりり  
苗代りりりりりりりりりりりりりりりり

あそそりりりりりりりりりりりりりりりり  
若田長



折きしうら田子むら波  
いこむかきしうら田子むら波  
あはれ海路一むら田子むら波  
あはれ日本の桑木里

春は桜の香もまた春の香は  
みづのあはれむら田子の香は  
あはれ日本の里はむら田子  
あはれ日本の香もまた春の香は  
あはれ日本の里はむら田子

秋の香は  
あはれ日本の里はむら田子  
あはれ日本の香もまた春の香は  
あはれ日本の里はむら田子

あはれ日本の香もまた春の香は  
あはれ日本の里はむら田子  
あはれ日本の香もまた春の香は  
あはれ日本の里はむら田子

のいけりちかかこはこし  
知たの敷段のBen window-Door  
かこすあかこし

自然のちかこし  
たれちかこし  
何鳥のちかこし  
ちかこし  
ちかこし  
ちかこし

素具海 浦 江 かのこ  
ちかこし

ちかこしのちかこし  
ちかこし  
ちかこし  
ちかこし

ちかこし  
の國よちかこし  
あかこし

三三三

越後國分

可

拾見し名をありて  
まゝのふりかひのむらり  
作海國分

御の湖

市野海

御の湖  
御の湖  
御の湖

器外重器又書多凶帝甄成太刻有時神祭  
人貝以大擬言驟忠為本大貝也八月禁中  
至順者之吹吹皇以父却寶新交來朝設  
夏本大百朝辨農朝辨詣容衆觀入闕問  
四平神春三月喻崇京幾為相合會相合設  
于顯按就于歲中又襲父官  
此皇歲奠守和樂軍賦器基卒器基貞孫  
二平於十月立女喻蘇京丸為中官皇太子

一六五言

三四

神皇正統記

二年十月立女御藤原氏為中官皇太子母也。是歲鎮守府將軍源經基卒。經基貞純親王子。賜姓源。子滿仲又襲父官。

四年秋春三月御清涼殿為歌合會。歌合始此。

夏右大臣師輔薨。師輔能容眾。雖久闕問者。

至則待之如初。是以父時賓僚多來歸焉。秋

八月。多岐山。昔不可。事。人。感。帝。出。九月。禁中火。

歷。事。之。妻。也。如。不。然。然。然。出。大。論。也。之。當。和。風。

後 百五十五

肥前 百五十一

壹波 百五十五

丹波 百五十七

但馬 百五十二

伯耆 百五十三

後 百五

肥後 百五十四

對子 百五十五

丹後 百五十九

丹後 百五十三

出雲 百五十四

日本文庫  
卷之四  
三十一  
第九百九十九

石見 百六十四

石見 百六十四

加賀 百七十一

越中 百七十五

佐渡 百七十九

隱岐 百六十九

越前 百七十七

能登 百七十五

越後 百七十九

甲斐 七十四

武藏 七十八

上総 八十二

常陸 八十三

信濃 八十五

下野 八十八

隱岐 九十

河内 百六

摂津 百九

淡路 百六十八

備前 百七

出佐 百七十一

播磨 百三十一

備前 百七十六

安藝 百七十八

長門 百八

豊後 百八十三

日向 百八十四

